

ホタル乱舞へ準備完了

城陽・青谷川支川

水流に竹筒、川底を改善…

自然発生的にカワニナ増殖

地球環境倶楽部 6月のシーズン前に

城陽市内で唯一、豊かな自然が残る青谷地域。ただ、山間部を流れる青谷川上流でもホタルの乱舞はほとんど見られなくなっているのが現状。そこで、NPO法人・地球環境倶楽部(原田耕作理事長は自然環境を再生しつつホタルを呼び戻す取り組みに挑戦しており、今年も試験的に青谷川支川の鍵ヶ谷水系(市管理)で、石ころだらけだった川底に砂を入れたり、無数の穴を開けた竹筒を差し込み、水中の酸素を多くするなど改良を加えた城陽版オリジナルのホタル増殖計画を展開中。エサとなるカワニナが自然発生する環境づくりも整え、いよいよ6月の乱舞シーズンを迎える。

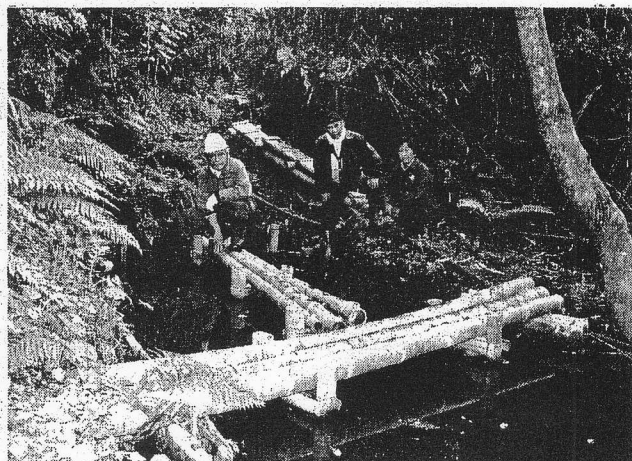
2年前から活動を始めた地球環境倶楽部は、市内の自然環境保全を柱に取り組みを進めており、昨年6月にはカワニナの養殖に取り組んでいる鳥取県三朝町を視察。城陽市と三朝

町は橋本昭男市長と吉田秀光町長が一般職時代に、東京・自治大学で同室だった縁で毎年、三朝温泉の湯が運ばれてくるお礼に…と城陽市からは『温泉ツアー』が企画されるなど、国

内姉妹都市的な関係が続いている。三朝町ではビニールハウスで養殖棟を造り、カワニナの育てる取り組みが進められているが、『自然再生』をキーワードに活動する地球

環境倶楽部のメンバーは、青谷川の川底の環境改善、水質浄化から自然発生的にホタルを増やす計画を視察後から本格的にスタート。城陽版オリジナルのホタル再生法とも言え

るこの手法は、放置竹林から直径10センチほどの竹を伐採し、長さ約40センチの竹筒を制作。その側面に無数の穴を開け、青谷川の水流の中に入れることで自然発生的に水泡ができ、水の中



【ホタルを青谷川に呼び戻す活動を行っている原田理事長ら】

年2月、それを岩盤だった川底に入れ、無数の穴を開けた竹筒を差し込んでホタルのエサとなるカワニナが増える環境を整えた。

14日前には原田理事長をはじめ半田理事、久木田えい子事務局長が現地に入り、川の水がより澄んだ状況となり、カワニナが生息しやすい環境となったことを確認。現地はウィラ城陽から鍵ヶ谷林道を約300メートルほど歩かなければならず、夜に一般市民が立ち入るのは難しいが、原田理事長らは「6月にどれほどのホタルが飛びか楽しみ」と表情を緩ませていた。なお、取り組みの成果は報道機関を通じて報告する予定だという。

職員採用試験 1次合格者

城陽市は14日、市職員採用1次試験の合格者の受験番号を発表した。

7月採用予定で、今後は今年22日に小論文など、6月12日には個人面接が行われ、同18日に最終合格者が発表

多くの酸素が注入され、水質浄化につながるというもの。将来的には軽費老人ホーム「ヴィラ城陽」近くにある親水公園内など青谷川本川に3カ所を整備し、原田理事長が子供のころに見たホタルの乱舞を再現する夢を描いている。実質、再生法スタート初年度の今シーズンは、滝の調査などで青谷の山を知り尽くす半田忠雄理事の提案で、鍵ヶ谷水系の小川の適地で、地元(株)城南工建から良質な砂の提供を受け、今